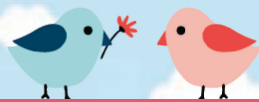




あさがお通信

2023年7月発行



連絡先

医療法人養和会 松本 みゆき
TEL 0859-29-5351
Mail matumoto_m@yowakai.com



医療法人養和会
松本 みゆき 看護師

『あさがお通信』あさがおの活動を始めて3年が経ちました。朝顔の花言葉 「人と人の繋がり・絆・結束」と同じように『あさがお』のつどいも、少しずつ広がり、仲間も増えています。そして、一歩前に進むことができたり、ひとりではないと感じたり、笑顔が増えたりしています。暑い時期に鮮やかに咲く朝顔のように、『あさがお』も5年を目標に新たな一歩を踏み出そうと思います。

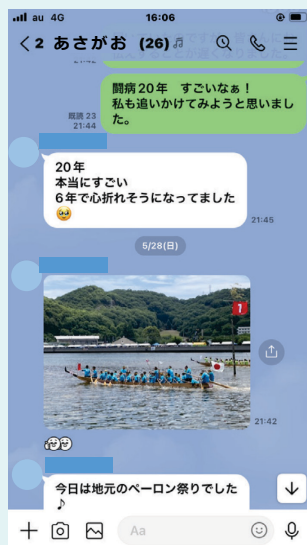


第36回 あさがおを開催しました！

がんになってから始めた趣味、最近始めた勉強や治療費、がん保険、障害年金のお金の話などについて話をしました。治療しながら生活する中でお金は重要な問題です。障害年金について、もっと医療従事者を含め知って欲しいと思います。

グループLINE

がんサロンから届くお便りをメンバーみんなで共有しています。その中で「闘病20年目を迎えます〜」というお便りにみんなが元気をいただきました。



第37回 あさがお

日時 7月22日（土）13時～15時

場所 オレンジサロン（ハイブリッド開催）

第38回 8月26日（土）13時～15時

－毎月開催－ 奇数月：第4火曜 偶数月：第4土曜－

奇数月は“ゆうがお”として夜に開催します！
20時～21時（19時～Zoomを開放・自由に入出入り可）
参加希望の方はお気軽にお問い合わせ下さい！

オンラインでの参加希望の場合は、
事前に参加申込みをお願いいたします。



あさがおの開催などの情報を掲載しています。ぜひご覧下さい！



参加者のコーナー

今月のテーマ「最近のマイブーム」



一人旅

つつちー



ミニバラにチャレンジ

ひろー



期間限定商品

マルちゃん



梅酒の梅

ひろはし

あさがお参加者、グループLINEメンバーからいただいた作品

次回の写真テーマ：『わたしのストレス解消法』

蒸し暑い日が続きますが、みなさんのストレス解消法はなんですか？趣味やグッズなどおすすめのことを教えてください☆

「お母さんって元気よね～」

tomo

お母さんって元気よね～

昨日、娘からこんな褒め言葉？を頂きました。

この春、娘は志望校に進学し、長男は先日部活で県大会まで進み、私も夫と一緒に応援についてまわるも、インターハイ出場常連校に第1試合でぶつかり、見事、木っ端微塵に親子共々完全燃焼してきました。今度は大学受験に向けて切り替えです。

私はというと、副腎癌は5年前に肝転移したもののトータル8年。乳がんは2年経過しました。

今年の検査結果も今のところ大丈夫そうです。10年生存率を上げる1人になるべく邁進中！

そして、冒頭の言葉に戻るのですが、娘曰く、「癌って生存率とか、治療が奏効するのが難しくくて怖くて大変なイメージがあるけど、お母さんって元気よね～お母さんを見てると、私も、大変なことがあってもなんとかなるんじゃないかって、乗り越えられる！って思える。」

この8年、私も慟哭、治療、希望、色々な感情や出来事と向き合い一日一日を大切にしてきたつもりです。山あり谷ありの日々を一緒に過ごして同じ風景をみてきた家族も楽しいだけの日々ではなかったはず。

その中で、私が1番心に留めていたことは、やっぱり家族の笑顔が幸せに繋がってるってこと。そして家族が幸せになるには心まで私が病気になるんじゃないってことでした。

治療が上手くいかないかもしれない。また再発してしまうんじゃないか。そんな不安はこれからも心の片隅に居座っているでしょう。だけど、死ぬ覚悟だけじゃなくて、どんな体になっても生き抜く覚悟をする。「前を向いてたくましく生きる」そんな母の背中を見て育てて欲しい、もし、私が子どもの成長を見届けられないことになっても、力強く生きて欲しい。そう思っていたから、娘の言葉がとても嬉しかったです。

私の子育て、私なりに上手くいっているようです。

「がん患者さんと向き合い10年、今私のできること」

がん化学療法看護認定看護師
平尾 敦子

がん化学療法看護認定看護師になって10年、大学病院でがん患者さんの看護にあたりながら、「がん」という病気について色々と考えてきました。医学の進歩でがん治療もものすごく進化し、早期発見できるがんも増え、治療で治る時代になりました。でも、「がん」という病気はたちが悪いタイプもあり、しぶとい性格もあるので、治療が終わっても転移したり再発する事もあります。そして思っている以上に長期に治療が続くことが多いです。その長い治療期間を身体的、精神的に支えるのが、病院での私の役割だと思ってきました。中でも、子育て世代の患者さんは自分の体の事以上に子供さんの事を考え、してあげたい事が思うようにできない辛さや、学校行事にいつもの元気な姿で参加できるかどうかという不安、子供に心配をかけたたくないという思い、などたくさん抱えながら治療に向き合っておられ、いつも心から応援したい気持ちで日々の看護にあたっていました。長い治療期間、治療終了後の経過観察の期間、がん治療による副作用や後遺症での体の辛さ、目に見えない心の辛さはどの人も持っておられると思います。少しでも辛い気持ちが和らいだり、体の辛さが軽くなるような関わりができればいいな、といつも思っています。

4月から念願だったあさがおの会に参加させていただく事ができ、子育て世代、働く世代の方々と交流する中で、病院ではないコミュニティで私のできる事は何なのか、を今後も自分に問いかけながら活動していきたいと思っています。

